

昭和四十七年十月九日発行

「五十年をふりかえって」

—大八・きう金婚式。大八喜の寿を記念して—

五十年をふりかえって

村越 大八

きう

ご 挨拶

このたび開店五十年と私共の金婚式喜寿の祝を息子がしてくれることに相成り
皆様様をお招き申し上げました処、御多忙中ことに催しもの多い時にまげて年寄りのた
め大勢様の御臨席をえて、まことにうれしく有難く厚く御礼申し上げます。おか
げさまで二人共、毎日健康で過しておりますことを心より感謝いたして居ります。私
は無名の力のない年寄ですが、昭和四十五年十月には、山形県薬事功労者として県知
事より感謝状をいただき身にあまる光栄でございました。わずかな力ですが、営業を
通して病む人のために努力してきましたが幸にも息子夫婦が私の気持をくんでつゝま
しく健康のご相談所として歩んでおりますことを喜ばしく思い、奥の方でじっと見守
っている毎日です。

何卒今後共よろしく御指導御鞭撻の程お願い申し上げます。

村 越 大 八
き り

五十年をふりかえって

五十年をふりかえり思いつくまゝ書きなぐってみました。おこがましいこと、間違っている
こといろいろありますがどうか年寄りのつづり方と思し召し御笑読下されば幸いです。三十五
年程前（昭和十二年頃）長野より小学校の先生が村越家の系図を調べに来られ村越家は今から
三百五十年前、遠州浜松、村越志摩守といい、浜松より長野、新瀉、米沢と移ったそうです。
その頃米沢には、福田町、梶町、清水町に村越が三家あり父は清水町村越徳太郎の弟で礼蔵と
いい、清水町の分家の又分家に私共はあたります。其の後しばらくたって清水町の過去帳調べ
てみましたら先祖は村越志摩守とあり梶町の村越にもこの様に記入されてあるそうで昔は本家
分家の間柄と考えます。墓は桶屋町栄松寺にあり古い墓十二、三その南に梶町の古い墓十二、
三並んであります。父は十七才の時巡査になり、飛鳥、酒田、鶴岡、山形と廻り赤湯警察署部
長派出所所長となり勤務しているうちに後から入られた野村八助（後で米沢警察署長）と仲が
悪く非常に意地悪をされ怒って止めたそうです。恩給もつき元仲間町（現在沼田氏宅）の家屋
敷を求め、ここで私が生れまして興譲尋常高等小学校に四年まで不自由なく通学致しました。
受持は神田つね先生で四年間お習いし、誠にきびしい中にもやさしく御立派な先生でいられた

した。其の後父は事業に失敗し、せつかく求めた家屋敷も人出に渡してしまい、苦勞しつゝ、四十二才でこの世を去ってしまった。死後母は六人の子供をかゝえ、並大抵な苦勞ではなかつたかと考えます。私は高等一年現在の小学五年生一学期で中退し、十一才で大町大文字屋寺島薬局に奉行に出されました。大変によい方ばかりで、家では思ひ様に食べられなかつた食事も腹一杯をばせていただき私は薬業界への第一歩をふみ出したのです。その頃の営業時間は、朝六時より夜十時迄で毎日病院医院の注文とり帰っては袋はりと一日を有意義に働き廻りました。今で細工ものが好きなのはその頃の影響かと思ひます。毎日注文とりは病院、医院を廻ると二、三人の書生さんがおられ医師、歯科医師、薬剤師の国家試験を受けるべく猛勉強しており子供心にたいしたものだと感心していました。薬局開設の希望はこの注文とりより生れたもので薬剤師の国家試験を受けるべく御世話になつた寺島薬局を三年半で止め、単独上京致しました。今にして思えば大胆で赤面の至りですが何が何でも薬剤師にならねばと希望と信念に燃え、一人の知人もいない東京で、新聞広告をみて小石川の下竹薬局に勤めました。現在の様ならずかしい採用方法ではないのですが保証人が必要と云われ、ハッタと困りましたが、うそも方便と品川に伯母がいますといって店に入れてもらいました。朝早くから夜おそく迄自分で行うのはおかしいのですがよく働きました。店のため、身のためと米沢の寺島薬局での経験を

かして働き廻りましたので店の方にも認められ、いつのまにか保証人の件もふっとんでしまいました。その後自分の目的の病院が見つかりましたので二年半でひまをいただき大森病院に移りました。今迄の薬局勤務が非常に有意義な糧となりまごつく事なく病院の薬局でも働かせてもらいました。夜の病室廻りもつらいものでしたががんばりまして同僚四人交替で明治薬学専門学校に通い、午前中働いて午後通学し、夜も働き乍ら勉強と、学力のない私には、ノートに何をかいてきたのか自分で判読出来ずノートはたまるし、本当に閉口しまして薬局長に話をしましたところ、「自分もそうであったがこうしてみたらと教えて下さったのが大学ノートの左側に線を引き、そこに右に筆記したものの要点だけを書く様にすること、筆記が早くてききとれない時は、そこをとばしてあとで友達にでも写させてもらったら」との事で今にして思えば簡単なことですが、あの当時は大変よい知恵を与えてくれたものと大いに感激したものです。調剤も各科から廻ってくる処方箋で命がけの連続でした。簡単な様で処方箋の間違ひもあり、それを適格に見つけ出すことも薬局の使命であつて、この病院勤務のおかげで処方箋をみただけで病名をあてられる様になり患者の顔色みただけで容態がだいたい想像出来る様になりました。又病院に勤務しつゝ漢方薬の研究に半年ばかり神奈川県山北の漢方医、林医院にやってもらいました。漢方医の老先生は六十五才位、若先生は三十二、三才の方で千葉医専出た方で普通の

内科医、屋敷一面の薬草を季節毎に採集し、出来ないものは専門店より求めました。黒焼の造り方も致し、薬品は全部漢方薬を使用しました。箱根の山の中より村の人五、六人で往診、迎えにこられた老先生は籠にのって出張治療に行かれます。五十人位診察され処方箋を出されず。三時間位かゝって一人で五十枚の処方をするのは忙しいものでした。大中小一二三号と丸い匙あり障子紙（日本紙）四つ切りに何々何号で何ばいと十種る位混合、それで一日分障子紙（日本紙）四つ切それを七日分ずつ障子紙二つ切の袋に入れ夫々筆で氏名、用量をかき一包に水一合入れ五勺に煎じつめ一日三回服用林医院とかき渡したものでした。月三回位往診ありましたので忙しい中にも漢方のことはよく修得出来非常に参考になりました。

この様にして国家試験の学科だけとる事が出来ましたが悲しいかな実地試験はどうしてもとれず七年つとめ、事情もあって一応米沢に帰りました。基礎がなかったものでこのあたりが一番つらいもろくも、くずれそうな状態でした。薬店でも開くべく或る薬店主と共同経営の案もたてたのですが相手の都合で出来なくなり仕方なく誠に心細い小資本で店を開きました。

大正十二年十月のことです。

商品はさらっと一列にわずかに並べて、不安なものでしたが長年の修業で「かん」と「経験」には絶対自信がありました。

店は小さくとも看板だけは大きくと丸喜大薬房とかかけました。その頃米沢には

大町に工業薬品販売の九里さん、鍛冶町に薬草専門の重野さん、柳町に近さんが売薬と膏薬製造、又西仲間町の高橋さんは薬品と写真材料、今町の池田さんも薬品販売とラムネ製造、館山口高野さん、銅屋町遠藤さん、東町の梅津さんは売薬と薬品販売でした。立町の仁科さん、遠藤さん、桐町の中村さん、大町の寺島さんはあこがれの薬剤師で毒劇薬販売、指定薬品販売、処方調剤でした。この他売薬店も二、三あった様ですが記憶はうすれました。免許をとって商売するのは数少くあまりなかった様です。その頃は貧富の差激しく病気になるっても金がなければお医者にもかかれず今の様に医療保護もなく、働けど働けど生活楽にならず、子供はどんどん生まれ、子供の成長のみ楽しみに生きているのが普通でした。旅行・見物・招待会などもなく毎日毎日が必死の商売でした。商品が少ないので説明は十二分に満足される迄繰り返したがいざ販売となると商品がなくどここの薬店より買い求め服用しなさいと、そして結果を必ず知らせてくれる様言い添えました。

又その頃は薬草、草根木皮漢方薬が非常に売れたものです（当薬せんぶり胃の薬、重薬下剤、げんのしょうこ下痢止、イカリ草強壮剤、黄連胃薬、キササギ、岩フキ等）皆路傍に自生して居りますので、ひまの時沢山とって来て乾燥して十匁位ずつ包み、定価十銭で売りました。よ

く売れましたが忙しくなり採集にも行けず人を頼んで日当を支払いますと利益は僅少で結局は東京の薬草問屋より仕入れて売ることになりました。

日本薬局方の生薬も病院で使用しますが、煎剤と浸剤ありまして吐根、麦角、ウワウルシ薬、デキタリス薬、甘草、ゼネガ根、遠志根、キナ皮、ハッカ葉、大黄、甘草、サフラン等が主でした。漢方も非常にむずかしくなかなかつがいりました。

日増しにお客様もふえて後で四、五人の御得意様から資金を借すからと有難いお言葉で商品を沢山仕入れ売れてからお返しするという何回も何回も繰返しでした。利子も取らず貸して下さいました。あの頃はお客様にも三つの型があって栄養失調よりきた疾患、第二は梅毒性よりきた疾患、次に結核性よりきた疾患とおお客様の顔色と二、三の間診でだいたいの的中したものです。こうして薬店を開き一人でがんばっておりましたが次第に忙しく、お世話下さる方があってよく顔をみないままに結婚致しましたのが妻きうであります。

この頃店に米沢高等工業高校応用化学科科長の吉田先生の奥様が度々買ものにお見えになられ国家試験実地のみがとれずに難儀しておりました事であつかましく早速に官舎に伺って何とかして薬剤師の試験を受けたいからとお願い致しましたが「中学卒業しておらぬから学校入学は出来ぬとことわられました」が再三お願いして無給助手として入れて頂き午前中雑用、午後より

各科の先生の御指導を受けまして一年半研究し、その後実地試験に合格致し、昭和二年開局致しました。吉田科長、諸先生方のお蔭と感謝しております。吉田先生に桂町の小さい薬屋では目立たぬからと二千五百円の大金をお借し下され昭和十^六年に現在の店舗を建てました。前の家を引っぱったりいろいろして三千円程かかりました。開設後家庭薬の許可を十種類位とり虫下し、マルキ胃散、風邪、くさの薬、昭和膏、その他を製造しました。評判がよく売れて明日売るにもことかき夜中二時頃迄二人で製造したものです。胃散は親族の方五、六人に手伝ってもらい千八百袋作るのですが二ヶ月でなくなるのでずい分忙しい事でした。

医薬品工業品は百ポンド仕入れ小分けして販売し、瓶は高等工業学校より毎年依頼して大量に払下げていただき大助りでした。

広口瓶二三千本残って使用不適で困りましたが丁度その頃遠山できのこ栽培がはやり五倍の値段で全部売れました。

商売は又興味を持つと苦しくともとても楽しく出来るものだと思います。当時私は小国の無医村に恩賜の出張診療に行った時、夕方店に帰るべく山の上より近道を滑って来ました。途中炭焼小屋あり一休みさせてもらいました。土間にむしろを敷き石油箱をうめて茶道具をおき、食物を貯えて、丁寧に茶を入れてくれました。毎年品評会に出して賞をもらっているとの事。

それには火をおこす時のおき具合、火力、もえつつづけている時の炭の形、灰になってからの状態などよく研究していました。その時も桜の木直径二十五cm、長さ一五〇cm位のまんなかのこぎり目を深く入れて釜に入れると焼けて二つに割った時とても綺麗に黒々と焼けて火花もとばず火鉢に白い灰を入れ炭火を起した様子は本当に絵の様だとの事でした。この時も品評会に出品する儀を特に念入りにおんでおるところでした。

炭焼きの人でさえ工夫しているものと私も翌日より新たな考えで何事にも興味をもつ姿勢で店頭にたちました。

横浜より片脳油大缶で仕入れ除虫菊の浸出液を混合してネオネオ片脳油としてビール瓶に入れ防臭殺虫剤として売り出し大変好評でした。スキーにぬるワックスも製造し、卸売り致しました。この様な時に金をしっかりためればよかったですが大金を借金してのことですのでこれをお返しすることのみでせい一杯でした。

結婚して十年程すぎ子供にも恵まれませんので私も身体丈夫でなく九月頃必ずといってよい程十日位床につく有様でしたので万一を考慮し家内に薬種商の試験を受けさせ、それでも心配で一ヶ年間産婆の学校に通わせ資格をとらせましたが開業しても店急しく働けなくなりました。それでも産婆会に入っておったので顔見知りの産婆さんが大勢店の御得意様になって下

され有難いことでした。子供はやはり出来ず離婚しようかと真剣に考えたのですが本人よりも両親が立派な方でとても口に出されるものでなくとうとう今日まで共に過して参りました。

十人程あがり育て可愛いがりましたが現在二人残り一人は篤の家内となり、一人は昨日(十月八日)に結婚致し新生活の第一歩をふみ出したところでほっとしているところです。私の息子篤は、上の山原田病院長、上の山産婦人科医院長の弟で米沢興譲館を卒業後明治薬学専門学校卒業後東京の薬局に二年、保健所に勤務後縁あって私共のところに来てもらいました。五年生の女子のやさしい父親ですが研究熱心でどんな遠方の研究会にも出席しお客様に満足していただく様常によき相談薬局として歩むべく努力している様で、私の長年の努力もそのまま息子が引き継いでくれ思い通りと心より喜んでおります。家の事情でかって十一才で奉行に出され母と兄二人は京都に行き、みなし子同然になった事を考えると、自分で云うのも何ですがへこたれず強い意志を持って歩めば、世の中の人々は、必ず力になって下さるのだと痛感致しました。

私には四十年程前から夢がありました。現在とて変りませんがそれは市内の土地一万坪位買って(あくまでも夢です)私設遊園地を造り中を全部芝生にして廻りは土手にして桜を植え、四つ角に公衆便所、水飲場を作り、木の下にベンチをおいて散歩の途中一休みする。芝生の上で

老人、子供も大いにさわぎ遊び、最低の入園料をとって人夫や修理費にあて市民が平等に幸せを味うということでした。こんないいの場があったら老人、子供どんなにか楽しいでしょう。話交りますが私は、色々な事で行詰り思案にあまった時自分一人で悩んでおらずに必ず他人に相談することにし、よい知恵を授けてもらい、気を軽くして新しい解決の糸口を見出すというやり方をしてきました。幸いよい相談相手もあって今日迄長生き出来たことは、この上もない喜びです。お酒が入ると遂下手くそが第一番に口を開きますが若い時はいろいろの会合で順番にかくしげいをするため仕方なくレコード二枚買ってきて両面端唄四つ覚えましたが年とともに忘れ消えてしまいました。私は無趣味で何もたいしてこれといった深いものはなく、釣の名人にきいてもその通りには釣らず我流で釣り、植木も見事にさいた花よりも来年咲く種に興味を持つという変わった性格であまり物事にこだわらず急がず、あせらず来年を楽しみに生きてきました。

最後に上杉鷹山公の「なせばなる なさねばならぬ何事も なさぬは人のなさぬなりけり」とうたわれましたが何事も熱意をもって正直に生きればなせるものなりと常に考えて座右の銘に致しております。

世の中で一番楽しく立派な事は生涯を貫く仕事を持つ事である」と福沢翁の七訓の一つにあり

ます通り、私も小さい乍らも一薬局を守り貫き又息子がこれを受けついでおりますことはこの上ない幸せな事だと感謝しながら耳の遠いばあさんと昔話をして毎日を送っております。

これからも共に体に気をつけ移り変りの激しい世の中を楽しみながらわたりたいと思えます。このたびは誠に有難うございました。